



天文台だより

銀河の森天文台
2000冬号
vol.6

しし座流星群観望後記



しし座流星群が'99年もまたやってきました。'98年は母彗星である「テンペル・タトル彗星」が回歸したばかりということもあって33年ぶりのしし座流星群に大きな期待がかかっていましたが結局大流星雨とはなりません。そして今回は、マスコミの報道もあまりないまま、11月17日の晩を迎えました。銀河の森天文台では17日、18日と「しし座流星群特別観望会」を翌朝4時まで行い、17日は150名ほどの参加がありました。大勢のお客さんは屋上に敷かれたシートの上で仰向けになり、寒空のもと流星の出現を待ちました。しかし流星はちらほらと流れる程度で、結局その日流れた流星は1時間に10個程度でした。それでもこの日、全国的に天候が悪く、晴れたのは北海道と東北の一部だけとのことで、観測会の様子がNHKにより全国放送されました。そして、18日の夜を迎え、昨夜の（NASAが捉えたというヨーロッパでの）しし座流星群の様子がニュースで流され、まさしく雨のように降る流星雨の映像が、克明に捉えられていました。日本ではあまり流れませんが、地球の裏側、ヨーロッパでは最大1時間に5000個という流星雨が出現していたのでした。観望会

二日目の18日の晩、ヨーロッパの方で大出現してしまった後ということで、専門家は「もう流れないでしょう」という予想の中、半分諦めムードで観望会が始まりました。お客さんもやはりもうピークは過ぎたということを知ってか30人ほどの参加者でした。しかし予想に反して、次々に流れ出る流星にお客さんは大喜び。

やがて夜半過ぎに月が沈み、流星の出現数はどんどん増していきました。この日の参加者は本当に運が良かったと思います。10分ほど流星の数を数えてみるとなんと50個もの流星が数えられました。1時間に300個近くの流星の出現となったわけです。まさしく近年まれに見ぬ流星の出現となりました。日本各地でも同じように多くの流星が見られたようです。

'98年のしし座流星群は大雪のため観望会も中止となりましたが、'99年はすばらしい流星ショーでした。

今年のしし座流星群は下弦近くの月明かりがあるものの、ある程度は流れると予想されていますので、ご期待ください。



家族や友達同士で別荘気分を 味わってみませんか!

※ コテージ村のご利用を

- ・ 10人用コテージ30,000円、ベッド7人、和室4人の最大11名の宿泊可、陸別産カラマツ32cmログ、サウナ付
- ・ 6人用コテージ18,000円
- ・ ベッド6人カラマツ18cmログとログ風の2タイプあり
- ・ 半地下タイプコテージ
- ・ ベッド4人和室4人最大8名宿泊可ロフト、サウナ付

※ お得情報

- ・ 3泊以上連泊の場合1泊につき3,000円を割り引きます。
- ・ 町民の方がご利用の場合(町外者同泊可)の場合1泊につき3,000円割り引きます。
- ・ ただし7月1日～9月15日の間は適用されません。
- ・ また、「3連泊割引」と「町民割引」の重複はできません。
- ・ 管理棟で焼肉コーナーがあります。御1人3時間まで300円。

冬の星空



冬のみどころ

色鮮やかだった紅葉の秋も瞬く間に過ぎ去り、また厳しい冬がやってきました。そんな冬の厳しい寒さの中、夜空には1等星が数多く輝き、1年中で最も美しい星空が広がります。冬の夜、南東の地平線から頭上を通して北西の地平線へ冬の天の川がゆったりと流れ、それに沿って天頂から南にかけての空は冬の星座たちで埋め尽くされます。しかしそう言っても都会のような明るい夜空ではそのような星空や天の川はとうてい見ることができません。そんな街中でもひときは目をひくのが狩人「オリオン座」の勇姿でしょう。明るい星々がつくる長方形と、その真ん中で輝く三つ星。その特徴ある姿は南の空でひととき目立っています。

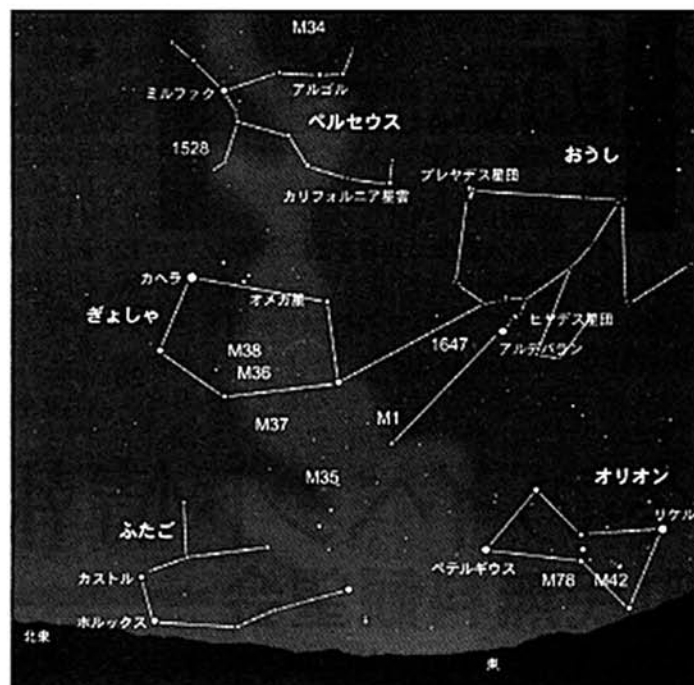
またこの時期、相変わらず木星と土星が仲良く並んでおり冬の夜空に更なる華を添えます。3月・4月上旬にはこの二つの惑星に火星や、更に細い三日月も加わり宵の西空がずいぶんと賑やかに感じられることでしょう。

●	1等星
●	2等星
●	3等星
●	4等星
●	5等星
◎	変光星
⊙	散開星団
⊕	球状星団
⊙	惑星状星雲
☄	散光星雲
☄	銀河

星座ガイド

おうし座

冬の宵、空高く真っ赤な星の輝きが目をはきまします。おうし座の1等星アルデバランです。その辺りを良く見るとこの赤い星を先頭に、いくつかの星々が小さなV字形に並んでいるのがわかります。これがおうし座の目印です。このV字形はおうしの顔を形づくっていて、真っ赤な星はおうしの右目にあたります。そしてこのおうし座にはいくつかの有名な天体があります。まずおうし座の顔の辺りにあるたくさんの星々を「ヒヤデス星団」、おうしの肩の辺りにぼんやりと輝く星団を「すばる(プレヤデス星団)」といいます。これらは散開星団の中でも代表的なもので、双眼鏡で十分その美しさを堪能できます。そしてもう一つはおうしの角のところにある「かに星雲」です。これは今から950年ほど前に爆発をして死んだ星の残骸です。



すばる(M45プレヤデス星団)

「すばる」は清少納言の『枕草子』に、「星はすばる…」と記されるようにその言葉は割りと誰でも知っていますが、いざそれがどのような天体なのかと尋ねられると意外と知らない人が多いものです。左の写真にあるのがその「すばる」で、またの名を「M45プレヤデス星団」と言う星の群れです。すばるは冬を代表する天体のひとつで、この天体が現れ始めるといよいよ冬が近いことを感じさせられます。数多い散開星団の中で最もよく知られ美しい天体です。肉眼では青白い星が6、7個小さく集まって見え、双眼鏡を向けると大小130個程の星々が眩く広がっています。

写真で見ると淡い星雲に包まれているのが分かり、それはこの星団の星々がまだ生まれて間もない若い星であることを物語っています。

冬の暦

(陸別町)

	日の出	日の入	月 齢	月の出	月の入
2月1日	6:41	16:36	25.4	3:14	12:54
2月15日	6:24	16:55	9.6	12:03	2:15
3月1日	6:00	17:15	24.6	2:52	12:18
3月15日	5:36	17:32	8.9	11:50	2:16
4月1日	5:06	17:53	25.9	3:33	13:54
4月15日	4:42	18:09	10.4	14:13	3:14

「低緯度オーロラ」天文まめ知識

太陽活動が活発となる今年、これに伴い地球ではオーロラの発生も活発になってきます。そこで日本、特に北海道地方で久々のオーロラ出現が期待されています。通常、オーロラは北緯60°~80°程の緯度の高いアラスカや、シベリアなどで発生しますが太陽活動の活発な時期には、緯度の低い地域でもオーロラが見られる可能性がでてきます。太陽表面で大規模なフレア(太陽表面の爆発現象)が起こると、その衝撃波が地球に2日程で到達します。太陽からのプラズマ粒子(太陽風)が、地球の両極あたりにある磁力線の束から地球大気へと入り込み、それが大気に衝突して発光するのがオーロラです。11年周期でやってくる太陽活動の活発な時には黒点数が増加しフレアも頻繁に発生します。なかには巨大な黒点も出現することもあり、それに伴い地球への衝撃波も大きな物となります。すると日頃見られない緯度の低い地域でも赤いオーロラが観測できるようになります。ただそれは極めてまれな現象で、実際にお目にかかれればラッキーです。

天文行事&暦

2月

- 4 立春(24節季:太陽黄経315°)
- 5 ●新月
- 6 天王星が合(太陽の南0°41'2")
- 15 水星が東方最大離角(光度-0.5等)
- 16 ふたご座と星が食(変光3.7~4.1等)
- 19 雨水(24節季:太陽黄経330°)
- 20 ○満月

3月

- 5 啓蟄(24節季:太陽黄経345°)
- 6 ●新月
- 9 夕方、西の空に火星、木星、土星が並んで見える
- 10 月が木星の南4°24'7"を通る(02時03分)
くじら座μ星が食
- 12 月とヒヤデス星団が近くなる
- 16 かに座δ星が食
- 20 ○満月
春分(24節季:太陽黄経360°)
- 28 小惑星セレスが衝(19時05分、光度7.0等)

4月

- 4 清明(24節季:太陽黄経15°)
- 5 ●新月
- 7 夕方、西の空に三日月、火星、木星、土星が並んで見える
- 8 細い月がヒヤデス星団の中に入り込む
- 19 ○満月
- 20 穀雨(24節季:太陽黄経30°)
- 22 こと座流星群が極大(出現期間16日~25日)
- 29 しし座の変光星Rが極大(周期310日、変光範囲4.4~11.3等)

冬のイベント情報

町民無料観望会

3月11日(土)~3月31日(金)まで、町民の皆さんへ天文台無料開放を行います。(但し月曜・火曜は休館日です。)

この間、火星、木星、土星が西の空に並んで良く見えます。その他にも「すばる」や「オリオン大星雲」など、冬を代表するさまざまな天体を大型望遠鏡でご案内します。是非この機会にお越しください。

団体、サークル活動の一環としての来館も是非どうぞ。

○「さよなら木星・土星観望会」

秋から冬にかけて見頃であった木星・土星が9月まで、見られなくなります。

日没から午後8時くらいが見頃です。

開催月日 平成12年2月18日(金)、19日(土)、20日(日)、
25日(金)、26日(土)、27日(日)

○「四天体(月、火星、木星、土星)夕空観望会」

夕空に月、火星、木星、土星が一直線に並び大変きれいに見えます。

日没から午後7時くらいまでが見頃です。

開催月日 平成12年3月8日(水)~12日(日)まで

2000年これだけは見ておきたい天文現象!

- 4月6、7日 三日月とならぶ火星、木星、土星の3惑星(3月9日頃にも同様の現象が起きる)
- 7月16日 皆既月食 20時57分~24時54分(食の最大:22時55分)
- 7月下旬 肉眼で見える彗星1999 S4リニア彗星の観望好期(光度:2~3等級)
- 8月12、13日 ベルセウス座流星群が極大(最大30個/時)
- 9月12日 中秋の名月(月齢14.1)
- 11月17日 しし座流星群が極大(最大60個/時)
- 11月下旬 木星、土星ともに地球に一番近づき観望好期
- 12月13、14日 ふたご座流星群が極大(最大20個/時)

※2000年は太陽活動が活発となるため、それに伴って北海道でも運が良ければ11年ぶりに赤いオーロラが見られるかもしれません!(季節は関係ありません)



お知らせ

- ・4月1日より天文台開館時間は夏時間と変わり、午後2時~10時30分までとなります。

売店 INFORMATION

天文台オリジナルグッズとしてTシャツ・石細工・テレカ・絵葉書・キーホルダー・巾着袋・アイスクリーム等を、町内の方々に創りだしていただきました。売店で来館の皆さんに陸別の思い出として購入していただいています。好評です。

発行・編集:りくべつ宇宙地球科学館(銀河の森天文台)

〒089-4301 北海道足寄郡陸別町宇遠別 TEL:01562-7-8100 FAX:7-8102

URL:<http://town.rikubetsu.hokkaido.jp/tenmon/index.html> E-Mail:ginga@town.rikubetsu.hokkaido.jp